

第40回 高知女子大学看護学会の報告

平成26年7月12日(土)、昨年に引き続き、『看護を拓くナラティブ・アプローチ』をテーマに、高知女子大学看護学会が開催されました。当日は、昨年の参加者数を上回る221名のみなさまの参加をえて、活気ある学術集会となりました。

講演

午前中は、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻教授 遠藤淑美先生に「実践に活かすナラティブ・アプローチ」というテーマでご講演いただきました。

遠藤先生ご自身の体験をふまえ語られた、『ナラティブが語る者と聴く者の間に現実を創り、その現実はナラティブによって書き換えられる』という現象は、多くの方に振り返りや気づきをもたらしたようです。

ご参加いただいた皆さまからは、「語るということを意識的に行うことで、臨床で看護師の育成をしているときに看護師が自己に気づくことができるのかもしれない。自分自身の気づきを得られた」「語る事が看護に必要であること、本質であることが再認識でき迷いが少しはれた」「看護師のもつ本来の技能を磨く必要があると思った」「教員の立場で学生とかかわるときも参考になる話でした。学生に対して‘こんな看護師になってほしい’とか‘この子らしく育てほしい’という思いを大切に学生自身の語りを引き出せるような問いかけのできる教員でありたいと思った」などのご感想をいただきました。



ワークショップ

午後には、「ナラティブ・アプローチを活用したシミュレーションデザイン」「現任教育に活かすナラティブ・アプローチ」「慢性の病いの語りの意味と可能性を探る」「ナラティブを引き出す聴く技術」「研究：語りを分析する」「保健活動の伝承」「病院と地域をつなぐ ～今を語り合う」の7つのワークショップにて、参加者がナラティブ・アプローチを用いた実践や研究を振り返り、今後の展開について語り合う機会をもちました。



各ワークショップには、20人前後の方が集まり、それぞれのテーマで、あついディスカッションが展開されました。

参加して下さった皆さまからは、「刺激になった」「わかりやすく実践的であった。着実に目の前のことから始めていきたい」「自分のアンテナに触れた語りのみ分析していたのではいけないと感じた。共に語りを構成することは難しいです」「ナラティブから人材育成まで深い語り合いができた」「連携・協働の真の意味が伝えられる活発な意見交換ができた」などのご感想をいただきました。

総会

大学カフェテリアで、ランチョン形式で行われた総会には、61名の学会員に参加いただきました。35期生川上理子氏、博士7期生越智百枝氏が議長として選出され、平成25年度の事業報告、会計決算報告、会計監査報告が行われ、承認されました。続いて、審議事項として、奨学生の選考、平成26年度事業計画案、予算案などについて話し合わせ、こちらも承認されました。

